

終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査機器Alice5を導入しました

当院では平成25年2月より新しい終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査機器としてAlice5を導入しました。

当科では、これまでも睡眠時呼吸障害の専門的な診療を行ってきました。なかでも睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome : SAS）は、最も多い睡眠時呼吸障害です。

SASは肥満の人に多いといわれていますが、肥満だけでなく扁桃肥大や小顎症、舌の肥大などのさまざまな原因があります。これらを背景として睡眠時のいびき、無呼吸などが症状としてみられ、睡眠時に無呼吸、低呼吸が起こるために夜間の睡眠が分断され、頻回に中途覚醒が生じます。その結果、朝起きてもすっきりせず、日中も眠気が残り、ぼーっとしている状態になります。これらを放置しておくことと日中の眠気のためにADLが低下するだけでなく、糖尿病、高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患などの重大な病気の発症要因となります。重症のSAS患者さんは生命予後が悪いことが明らかになっており、早めに治療することが、脳心血管疾患の予防のためにも重要です。

これまで当院で使用していたAlice4では、睡眠時の呼吸センサーが温度センサー1種類のみでした。新しく導入したAlice5では、低呼吸をより感知できる鼻圧センサーを加え、2種類のセンサーで検査することによって、呼吸障害をより正確に診断できるようになりました。

さらにAlice5には、ビデオカメラを接続することが可能であり、患者さんの実際の睡眠状態を視覚的にも記録することができます。これにより睡眠呼吸障害をさらに正確に診断することが可能となり、また睡眠時に随伴するさまざまな症状、睡眠時のひきつけ、レム睡眠行動障害、睡眠時遊行症、睡眠時てんかん、むずむず足症候群なども診断できるようになります。

レム睡眠行動障害は、パーキンソン病や、レビー小体型認知症、多系統萎縮症などの神経変性疾患の前兆であるといわれています。これらの疾患については当院神経内科と共同して診断・治療にあたることも可能です。

当院のてんかんセンターには星田院長を初めとして3名の専門医が在籍しており、てんかんの診断・治療に積極的に取り組んでいます。てんかんと睡眠は密接なつながりがあります。多くのてんかん発作は睡眠中に生じやすい、また、睡眠中にだけ生ずることがあります。今後は当院のてんかんセンターと共同して、てんかん患者さんにおける睡眠呼吸障害についてなどの臨床的な検討も行っていきたいと考えております。

今回新しい検査機器を導入し、睡眠時呼吸障害の診断・治療をより充実させることが可能となりました。今後は、当院ならではの特色を生かしながら睡眠時呼吸障害の診療に取り組んでいきたいと思っております。疑わしい患者さんがおられましたら、是非ご紹介下さい。

